



2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2019年2月8日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	85,501	0.5	3,226	△0.2	3,325	△4.2	2,263	△6.4
2018年3月期第3四半期	85,088	3.2	3,232	△1.4	3,471	7.2	2,418	△8.9

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 2,028百万円 (△26.4%) 2018年3月期第3四半期 2,756百万円 (△24.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	94.21	—
2018年3月期第3四半期	100.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	78,291	45,484	58.1	1,893.27
2018年3月期	79,505	43,984	55.3	1,830.82

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 45,484百万円 2018年3月期 43,984百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	10.00	—	11.00	21.00
2019年3月期	—	11.00	—		
2019年3月期（予想）				11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,700	2.6	5,200	0.4	5,300	△0.4	3,600	△1.6	149.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	27,700,000株	2018年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	3,675,613株	2018年3月期	3,675,586株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	24,024,414株	2018年3月期3Q	24,024,499株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国際情勢の不安定さや国内で相次いだ自然災害の影響などがあったものの、アメリカを中心とした堅調な世界経済を背景に、企業収益の拡大とそれに伴う雇用・所得環境の改善など緩やかな回復基調が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、景気回復の継続によるさらなる消費マインドの盛り上がり期待されるなか、共働き世帯や単身世帯の増加など、ライフスタイルの変化に伴う時間短縮ニーズへの対応や、商品価値を厳選して購入する選別消費への対応が求められました。

このような状況下で、当社グループは一貫して、食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、人口構造の高齢化や働き方改革などによる社会の変化、女性の活躍推進、消費者の購買チャネルの多様化など、多彩な顧客ニーズへの対応として、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、ビスケット品目が伸張したこと、チョコレート品目やキャンデー品目が堅調であったことから、売上高は前年同期並みの推移となりました。

利益面では、エネルギーコストや原材料価格の上昇があったものの、コスト削減、生産性の向上、経費の効率的な使用などに取り組んだことで営業利益は前年同期並みとなり、一方、為替差損の影響により経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期を下回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、80,096百万円（対前年同期比100.5%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、昨秋発売した「128gミニ濃厚チョコブラウニー」が好調に推移しました。「個性的なビスケットをお求めやすい価格で」をコンセプトとしたホームカフェビスケットシリーズと「チョコチップクッキー」などのロングセラーのパッケージビスケットシリーズをリニューアルしました。また、兵庫県政150周年記念に合わせた「神戸しっとりチーズケーキ」を発売したほか、福岡県産のあまおう苺を使用した「九州限定ディズニールフォートあまおう苺」など地域限定商品にも取り組みました。さらに、期間限定で東京駅一番街に「アルフォート」ブランドのアンテナショップ「TOKYO ALFORT by アルフォート」をオープンし、特別に仕立てたさくら味や抹茶味のアルフォートなどに大きな反響をいただきました。ハロウィン企画や受験生応援商品に加え、季節に合わせた商品展開としてホワイトフェアや苺フェアを実施したことにより、マイベネフィット商品群、パーティ商品群、エリーゼシリーズなどが伸張しました。

キャンデー品目は、夏場の猛暑の影響により「ミネラル塩飴」が大きく伸張したほか、21種類のハーブエキスを配合した「シュガーレス爽玉のど飴」を発売しました。グミ商品群では、「フェットチーネグミ」シリーズにメロンソーダ味やすっぱい梅味などの新しい味を展開しました。

チョコレート品目は、生チョコレートを用いた冬限定商品として、「粉雪ショコラ」シリーズや「生チョコトリュフ」シリーズなどを発売しました。いちごごっしりの充実感チョコレート「ストロベリーラッシュ」が、SNSを通じて話題となり大変ご好評をいただきました。「アルフォートミニチョコレート」シリーズでは、ミルクテイヤーやプレミアム濃胡麻など新しい味の展開を行ったことに加えて、15周年の感謝の気持ちを込めて「アルフォートミニチョコレート」のパッケージデザインを使って手軽にメッセージラベルを作ることのできる「Thanks Label」キャンペーンを開始しました。既存品が伸び悩んだものの、小箱チョコレート商品群、ファミリーサイズ商品群などが順調に推移しました。

菓子全体では前年同期並みとなりました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、5,405百万円（対前年同期比100.1%）となりました。

飲料品目は、ココアの濃厚さとコーヒーのキレを組み合わせた「ココアボトル缶」を発売したほか、リニューアルした「牛乳でおいしくホットなココア」の取り扱いが拡大しました。災害が多くあったことからミネラルウォーター商品群に関心をいただきましたが、ソフトドリンク商品群の競争激化により前年同期を下回りました。

食品品目は、粉末ココア商品「まるやかでおいしいミルクココア」や「しょうがココア」の拡販に取り組みとともに、地震災害等をきっかけとした防災意識の高まりから、缶入りの保存商品に関心をいただきました。また、機能性食品では、栄養調整食品「スローバー」シリーズの拡販に取り組みましたが、品目全体では前年同期を下回りました。

冷凍品目は、「ルマンドアイスロイヤルミルクティー」を東北・北海道地域、関東地域、関西・中四国地域へ順次販売エリアの拡大を図り、日本全国での販売となりました。加えてご愛顧に感謝し、ルマンドアイスオリジナルグッズが当たるプレゼントキャンペーンを開始しました。これらにより前年同期を上回りました。

その他では、通信販売事業は、EC市場の拡大をはじめとした消費者購買チャネルの変化が進むなか、付加価値を高めた商品の充実や魅力的な品揃えの強化により、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益効率の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。一方で、日々の管理業務における配送ルート最適化を図り、作業の効率化、業務の改善、働き方改革や人員不足への対応として、AI活用によるルート最適化の実証実験に向けた取り組みを開始しました。

また、酒類販売事業は、限定醸造のクラフトビール「ALWAYS A WHITE（オールウェイズ ア ホワイト）」に好評をいただきました。ナショナルブランド商品に加え、受託生産や輸出が好調であったことから前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は85,501百万円（対前年同期比100.5%）、営業利益は3,226百万円（対前年同期比99.8%）、経常利益は3,325百万円（対前年同期比95.8%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,263百万円（対前年同期比93.6%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は37,562百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,632百万円減少となりました。これは主に、商品及び製品の増加があったことと、設備投資に伴う現金及び預金の減少があったことによるものです。固定資産は40,728百万円となり、前連結会計年度末に比べ418百万円増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得があったことによるものです。

この結果、総資産は78,291百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,214百万円減少となりました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は25,188百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,542百万円減少となりました。これは主に、設備投資に伴う未払金および法人税等の支払並びに賞与の支給があったことによるものです。固定負債は7,618百万円となり、前連結会計年度末に比べ171百万円減少となりました。

この結果、負債合計は32,807百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,714百万円減少となりました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は45,484百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,500百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は58.1%（前連結会計年度末55.3%）となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は14,366百万円となり、前連結会計年度末（17,942百万円）に比べ3,576百万円減少となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は1,726百万円（前年同期4,318百万円の収入、対前年同期比40.0%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,315百万円および法人税等の支払額1,719百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は4,501百万円（前年同期4,030百万円の支出、対前年同期比111.7%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4,566百万円があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は791百万円（前年同期143百万円の収入）となりました。これは主に、配当金の支払額523百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年4月27日の「2018年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,804	14,231
受取手形及び売掛金	14,513	14,471
有価証券	137	134
商品及び製品	3,707	5,179
仕掛品	484	512
原材料及び貯蔵品	2,332	2,693
その他	225	350
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	39,195	37,562
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,500	14,202
機械装置及び運搬具(純額)	10,471	10,336
その他(純額)	7,513	9,219
有形固定資産合計	32,484	33,758
無形固定資産		
のれん	1,320	1,234
その他	398	391
無形固定資産合計	1,718	1,626
投資その他の資産		
その他	6,108	5,343
貸倒引当金	△1	△0
投資その他の資産合計	6,106	5,343
固定資産合計	40,310	40,728
資産合計	79,505	78,291

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,541	12,400
短期借入金	1,770	1,750
未払法人税等	1,265	331
賞与引当金	1,140	399
返品引当金	32	27
その他	10,981	10,278
流動負債合計	27,730	25,188
固定負債		
社債	—	100
長期借入金	650	500
役員退職慰労引当金	261	234
退職給付に係る負債	5,935	5,891
負ののれん	19	18
その他	923	874
固定負債合計	7,790	7,618
負債合計	35,521	32,807
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	37,203	38,938
自己株式	△941	△941
株主資本合計	44,089	45,824
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	710	293
為替換算調整勘定	△569	△445
退職給付に係る調整累計額	△245	△188
その他の包括利益累計額合計	△104	△339
純資産合計	43,984	45,484
負債純資産合計	79,505	78,291

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2017年4月1日 至 2017年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）
売上高	85,088	85,501
売上原価	50,041	50,410
売上総利益	35,047	35,090
販売費及び一般管理費	31,814	31,864
営業利益	3,232	3,226
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	61	63
為替差益	117	—
負ののれん償却額	1	1
その他	81	118
営業外収益合計	264	186
営業外費用		
支払利息	5	5
減価償却費	12	18
為替差損	—	53
その他	7	10
営業外費用合計	25	87
経常利益	3,471	3,325
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	—	138
特別利益合計	0	139
特別損失		
固定資産処分損	26	48
減損損失	1	0
投資有価証券評価損	0	96
その他	—	4
特別損失合計	28	149
税金等調整前四半期純利益	3,443	3,315
法人税、住民税及び事業税	883	852
法人税等調整額	141	199
法人税等合計	1,024	1,052
四半期純利益	2,418	2,263
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,418	2,263

(四半期連結包括利益計算書)

(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2017年 4 月 1 日 至 2017年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	2,418	2,263
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	250	△416
為替換算調整勘定	△17	124
退職給付に係る調整額	105	57
その他の包括利益合計	337	△234
四半期包括利益	2,756	2,028
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,756	2,028
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,443	3,315
減価償却費	2,783	3,035
のれん償却額	85	85
受取利息及び受取配当金	△64	△66
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	5	5
為替差損益（△は益）	△115	31
投資有価証券売却損益（△は益）	—	△138
固定資産処分損益（△は益）	26	47
減損損失	1	0
投資有価証券評価損益（△は益）	0	96
売上債権の増減額（△は増加）	△1,718	34
たな卸資産の増減額（△は増加）	△986	△1,868
仕入債務の増減額（△は減少）	1,956	△131
賞与引当金の増減額（△は減少）	△681	△740
その他	1,019	△321
小計	5,754	3,384
利息及び配当金の受取額	64	66
利息の支払額	△5	△5
法人税等の支払額	△1,494	△1,719
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,318	1,726
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,936	△4,566
投資有価証券の取得による支出	△44	△182
投資有価証券の売却による収入	—	311
その他	△49	△63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,030	△4,501
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△179	△150
社債の発行による収入	—	99
リース債務の返済による支出	△202	△197
配当金の支払額	△474	△523
その他	△0	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	143	△791
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△8
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	436	△3,576
現金及び現金同等物の期首残高	12,996	17,942
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,432	14,366

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。